



**Data**

監督: 菊地健雄  
音楽・主題曲: 渡辺シュンスケ (S  
c h r o e d e r - H e a  
d z)

出演: 萩原みのり/久保田紗友/も  
たいまさこ/渡辺シュンス  
ケ/渡辺真起子/木野花/  
小笠原海 (超特急) /岡本夏  
美/望月瑠菜/桐生コウジ

### ■■■ショートコメント■■■

◆“おおさかシネマフェスティバル2018”で新人監督賞と音楽賞を受賞した本作は、2人のJK（女子高生）を主人公にした青春映画。しかし、ベストテン投票メンバーである私はこの映画の存在自体も知らず、あるメンバーが強かに推薦したことによって受賞が決定したらしい。その映画が3月4日に開催された「映画ファンのための映画祭り」である“おおさかシネマフェスティバル2018”の午前中に上映されたため、それを鑑賞。

◆クラス内の友達が多く、何ごとにも目立っているJK・はづき（萩原みのり）と、委員長と呼ばれている優等生ながらひとりぼっちで孤独なJK・葵（久保田紗友）の2人が本作の主人公。この2人は同じクラスでありながら、何の縁もゆかりもなかったのは当然だ。  
しかし、はづきが彼氏に妊娠発覚（？）の話をしているところを盗み聞きした葵が、ある意外な行動に出たところから、ストーリーが展開していく。さらに、ある日認知症のおばあちゃん（もたいまさこ）を2人で助けた（？）ところから、2人は反目し合いながらも何かと接点を持つことに。すると、それまで優等生とばかり思っていた葵にも、万引きの常習をはじめ、様々な弱点があることも・・・。

◆本作中盤には、おばあちゃんが「ある歌」を口ずさんでいるところから2人のJK同士の反発と共感が広がるとともに、「3人」の間に奇妙な友情が芽生え始めていくが、そのストーリー展開が面白い。かつて、吉永小百合と浜田光男、和泉雅子と山内健などの青春映画は男女のペアが主人公だったが、今や2人のJKが主人公に。しかも、そこに認知症のおばあちゃんが絡んでくる青春モノは珍しい。

しかして、おばあちゃんが口ずさんでいた歌は一体ナニ？おばあちゃんが大切にしていた手紙を、おばあちゃんの昔の彼氏に渡すラブレターだと葵が早とちりしたのは如何なものだが、そこから見せる若い2人のJKの行動力はさすがだ。

◆おばあちゃんが口ずさんでいた歌の意味とラブレターの届け先は2人の活躍によって少しずつ解明されていくが、そこにはおばあちゃんのどんな人生が詰まっていたの？2人のJKの高校2年生の夏は本来の学校の行事とは異質の世界で展開されたが、そこで2人が学んだものとは・・・？

高2で万引きの常習犯ともなれば「ごめん」では済まされず、一定期間の停学処分を受けたのは優等生の葵にとって痛手だったはずだが、処分明けの日の葵の行動は？こんな場合、普通は転校するらしいが、さて、葵は？そして教室内で葵を見た、はづきの行動は？

私が中高時代によく観た吉永小百合＝浜田光男の日活青春映画とは異質の今どきの青春映画を、あれから50年も経った69歳の今あらためて鑑賞し、いろいろ思うところもあり！“おおさかシネマフェスティバル2018”での本作の上映に感謝。

2018（平成30）年3月5日記